



## どのように学ぶかを重視した授業づくり

### アクティブ・ラーニング

本校が取り組んでいる「学び合いの授業づくり」の実践的研究について

教育現場では、今、新しい学習指導要領にむけて準備が始まっています。今回の「東和便り」では、「学習指導要領」についてみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

#### ○学習指導要領とは？

そもそも学習指導要領とはなんなのでしょう？文部科学省では、全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。つまり学校はこの「学習指導要領」に基づいて教育活動を展開しているのです。

#### ○学習指導要領が前倒しで改訂

学習指導要領は10年ごとに改訂します。現行学習指導要領は平成20年改訂でしたから、次は平成30年改訂し、順次実施予定でした。ところが、文部科学省は昨年11月、中央教育審議会に全面改訂を諮問しました。中教審は平成27年度中に改訂内容を答申し、早ければ一部実施される見通しです。そして、平成32年（2020年）東京オリンピック開催年には、次の学習指導要領全面実施となる見込です。

#### ○どう変わる？

学習指導要領は、時代のニーズを受けて改訂されてきました。例えば、平成元年改訂では生活科の新設と道徳教育の充実等、平成10年改訂では教育内容の厳選と「総合的な学習の時間」の新設、平成20年改訂では学ぶ内容の充実と授業時間の増加、などです。

次の学習指導要領で目玉となっているのは、現在は教科外として小学5年から導入されている「外国語活動」を小学3年から前倒しし、5、6年は正式教科にすること、中学校では英語の授業は基本的に英語で実施すること、道徳教育の抜本的改善・充実として小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、検定教科書を導入して「特別な教科 道徳」（道徳科）の実施、高校の地理歴史を見直し、現在は選択科目となっている日本史の必修化することなどです。

#### ○もっと大きな変革＝教育観の転換

ところが、実はもっと大きなポイントがあります。「何を教えるか」（生徒にとっては「何を知っているか」）から「何ができるようになるか」へと重点を移し、そのために「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視し、学びの成果として「どのような力が身に付いたか」という視点に変えようという、教育観・能力観の転換であり、そのための指導要領の「構造改革」です。

諮問では、「アクティブ・ラーニング」（課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習）という「学び方」そのものを、学習指導要領に盛り込むように明記されています。

#### ○改革される大学入試それはいつから？

小中だけでなく、高等学校の学習指導要領も見直され、アクティブ・ラーニングへの飛躍的充実が図られることとなります。こうした改革には、これまで必ず「それでは入試に対応できない」という批判が付いて回ってきました。しかし、中教審は、今の大学入試センター試験を廃止し、知識の活用力等を測る「大学入学希望者学力評価テスト」にし、各大学も小論文や面接に力点を置いた入試に改革することと、それを、東京オリンピックが開催される平成32年度に導入するという答申を出しました。

#### ○今の中学1年生が高校3年生の時

改革は遠い先の話ではなく、すぐ目の前に迫っているのです。どのように学ぶか＝本校の目指すもの「何ができるようになるか」、そのために「どのように学ぶか」かを重視した授業づくりをすること。「アクティブ・ラーニング」と呼ばれる学習手法を充実させること。これが東和中学校が研究している「学び合いの授業づくり」の実践的研究のことです。

#### 《きのくに学力定着フォローアップ事業研究授業の風景》



電子黒板を活用した説明



一斉学習（聴く）



4人グループによる協同的な学び

#### 「協同的な学びのルール」

- 全員がより確かな力をつけるために4人構成のグループ学習を入れる。
- グループになったら私語はしない。
- 机はしっかりくっつけて隙間をつくらない（机の隙間は心の隙間）。
- 最初、一人で考えることがもっとも力がつく。
- しかし、分からない時はグループの人に「ここどうするの？」と訊くことができる。
- 訊かれたら相談に乗ること。話す時は、声のトーンを下げる。
- 立ち歩かない。自分のグループで話し合い、他のグループの人とは話さない。
- ただし、グループ内で分からなかったら、許可を得て、誰かが代表になって、他のグループに聞きに行ってもよい。聞いた話は、グループのみんなに伝える。
- 訊かれていないのに教えることは、その子の学びの邪魔をすることになるから、絶対しない。訊かれて初めて応えるようにする。
- やろうとしない子には「どうしたの？」「やらない？」と声かけをする。



（学校長 東方 美喜夫）